

8710 ニュースはアナウンサーが伝えるべきか・・・

ニュースはアナウンサーが伝えるべきか、記者が伝えるべきかという議論があちこちで聞かれるが、私はその議論はあまり意味がないように思う。むしろ「ニュースは書き文章で伝えるか、話すことばで伝えるか」という風に考えるべきなのではないだろうか。しかし、そう考えれば結論は自ずから明らかである。ニュースの取材現場から取材記者が直接情報を伝える方が速報性からも、臨場感からもいいに決っている。現場からリポートするなら話すことばで取材記者が話す他はない。

森本 育郎：ぼくの人間手帖

[許容訳例]

Arguments are heard here and there as to whether the news should be related by announcers or reporters, but I don't feel they are meaningful. I wonder if one should not, rather, discuss whether the news ought to be delivered in formal language or in conversational language. In fact, if one thinks in this way, the conclusion is clear. For the reporter to report directly from the spot where the event is happening is naturally far speedier and more vivid. And if the reporter is speaking at the spot, there is nothing for it but to use the spoken style.

[翻訳例]

One hears discussion in various quarters concerning whether the news should be delivered by announcers or by reporters, but I myself feel that such discussion does not have much meaning. Surely one should consider, rather, whether the news should be delivered in formal language or in everyday language. In fact, when one looks at things in this way, the conclusion is quite obvious. For a news reporter to deliver a direct report from the spot is clearly better in terms of both speed and immediacy. And in reporting from the spot the reporter has no alternative but to use everyday language.

■ニュースはアナウンサーが伝えるべきか、記者が伝えるべきかという議論があちこちで聞かれるが、私はその議論はあまり意味がないように思う。(8710)

★「ニュース」は、どういうニュースでもいいというわけではなく、ここではラジオやテレビなどの「ニュース番組のニュース」です。「(番組としての) ニュース」ですから定冠詞をつけて the news とします。

★「アナウンサー」は、ここでは一般論なので無冠詞複数 announcers とします。

★「伝える」は「特定の誰かに伝える」のではなく「不特定多数の人たちに伝える」ので deliver を用います。ここでは tell は使うことができません。tell という動詞には「～を～に知らせる」という意味はありますが、「特定の誰かにある具体的なニュース・情報・知らせを伝える」という場合です。「不特定多数の人たちに伝える」場合には使いません。

★ 「記者」も同じ無冠詞複数 reporters です。

★ 「議論」は 不可算名詞として argument でも discussion でもいいし, 可算名詞として無冠詞複数で arguments でも discussions でもいいです。

★ 「A か B かという議論」は argument(s) [discussion(s)] whether the news should be delivered by A or (by) B でもいいですが, こういう場合, 英語では「A か B かということに関する議論」として argument(s) [discussion(s)](as to [concerning]) whether the news should be delivered by A or (by) B ともします。

★ 「あちこちで」は here and there とか in various quarters などです。この場合の quarter は direction の意味です。

★ 「聞かれる」は主語を人(one)にするなら能動態(hears)であり, arguments や discussions を主語にするなら受動態(are heard)です。なお, 「聞かれる」を have been heard と現在完了にすると, 「・・・だから (その結果) 今は・・・」というニュアンスになるので, ここは日本語と同じように現在時制でいいと思います。

●文構造 (A か B かという議論が聞かれる)

「A か B かという議論が聞かれる」には

- ① Discussion [Argument] is heard here and there [in various quarters] (as to [concerning] whether...)
- ② One (often) hears discussion [argument] in various quarters [here and there] concerning [as to] whether...
- ③ Discussion [Argument] (as to [concerning] whether...) is heard here and there [in various quarters]

という三つの構造が可能であり, しかも, さらに discussion や argument を無冠詞複数で用いる場合も加えることが出来ます。英語としては①か②が適当です。それから

- ④ There is discussion in various quarters whether...

という構造も英語としては可能ですが, 厳密には「あちこちでいつも聞かれる」というニュアンスになり, 日本語に含まれている「折に触れて耳のする」とはちょっと違うように思われます。

★ 「私は・・・ないと思う」は I don't feel...ですが, 「は」に比重をおいて「私の考えでは」という感じにしたなら I myself [personally]...とすればいいでしょう。また, I myself [personally] feel that...として否定語を that-clause の中に入れてもいいと思います。

★ 「意味がない」は be not fruitful [meaningful] ですが, 他に be meaningless [pointless] なども可能です。なお, nonsense は使えないことはないですが, 非常に強い意味になります。また, significant は, たとえば, It is significant that he should have come to Japan at such a time. Because... (・・・を考え合わせると, 彼の来日は意義がある) のように, 「他のものとの関連から考えて意義がある」ということなので, ここでは使えません。

◆ 「あまり・・・ないと思う」の「あまり」

「あまり意味がないと思う」の「あまり」は文の構造・用語によって変わります。

I don't feel that such [the] discussion is largely meaningless [pointless].

I don't feel that such [the] discussion is very meaningful.

I feel that such [the] discussion does not have much meaning [point]...

■むしろ「ニュースは書き文章で伝えるか、話すことばで伝えるか」という風に考えるべきなのではないだろうか。 (8710)

★「むしろ」は rather を挿入的に使います。

★「書き文章で・・・話すことばで・・・」は in written language or in spoken language でも何とか意味は通じますが、好ましくありません。筆者もその点に気がついていて「書きことば」と書かずに「書き文章」と書いています。ここでは in literary language [style] or in conversational language [style] とか、あるいは、in formal language or in everyday languageなどを用いるといいでしょう。

★「・・・いう風に考える」は「・・・ということを考える」(consider)とするか「(・・・か・・・か)を議論する」(discuss)とすればいいでしょう。

◆相手の同意を求める surely

「(むしろ) 考えるべきではないだろうか」は Should one not consider, rather, whether...? とか Would it not be better, rather, to consider whether...?など疑問文でもいいですが、「自分は・・・と思うのだが、どうだろうか」と相手に同意を求めるのですから、それが伝われば、必ずしも疑問文でなくてもよく、wonder を用いるなら I wonder if one should not, rather, discuss...です。ただ、ここは I wonder if...よりも surely を使って Surely one should consider, rather, ...とするほうが英文として優れています。surely は、たとえば、Surely I've met you before.のように「自分はそう思うのだが、そうでしょう」と相手の同意を促すような場合に使います。

■しかし、そう考えれば結論は自ずから明らかである。 (8710)

● [しかし] (「実際のところ」ぐらいの [しかし])

「しかし」は、文の先頭ですから「however+コンマ」で、通じないことはありませんが、この「しかし」は必ずしも前言を否定しているのではなく、ここではほとんど意味をなしていません。ただ、筆者の意図をくみ取ると、英語的には、「実際のところ」くらいです。したがって in fact としておきます。

★「そう考えれば」ですが、if one thinks so とすると think so は考え方や意見の内容を言うことになりますが、ここでは「こういう風に考えれば」ということで、if one thinks (about things [the question]) in this way です。なお、この「考えれば」は仮定法ではなく、たとえば、When it rains the ground gets wet.と同じような使い方ですから、when one looks at [thinks] things in this way と書くことも出来ます。

★「自ずから (明らかである)」は強いて訳出するなら quite くらいでしょう。

★「明らかである」は be obvious [clear] です。

■ニュースの取材現場から取材記者が直接情報を伝える方が速報性からも、臨場感からもいいに決っている。 (8710)

★「ニュースの取材現場」は the spot (現場) と定冠詞を付けることで十分通じますから the spot where the event is happening とする必要はありません。

★「取材記者」は the [a] (news) reporter でいいでしょう。

★「直接情報を伝える」の「直接」は「情報」(information)を修飾する形容詞ではなく「伝える」を修飾する副詞でしょうから、簡単に report directly でいいと思います。 information (情報) を用いるのなら relay information directly です。あるいは「直接」を「情報」の形容詞とするなら deliver a direct report です。

★「速報性からも、臨場感からも」は「速報性と臨場感の点からも」と改めて、文字通りに訳すと in terms of the speed of reporting [delivery] and immediacy of impact です。 immediacy と impact はそれぞれ一語だけでも「臨場感」に相当します。たとえば、His style of writing lacks immediacy. (直接訴えるもの[実感]がない)とか, The sound of these speakers lacks immediacy. のように使います。ただ、もっと簡単に in terms of both speed and immediacy でもいいでしょう。「もっと速いし、なまなましい」とくずせば be far speedier and more vivid とすることも出来ます。

★「～からも」は「～の点から (考えて) みても」ととらえて in terms of ～にします。このフレーズは、たとえば、One thousand pounds--what is that in terms of Japanese yen? のように「～に換算すると」いう意味まで入っていますし、布地を比較して This material much better than ~ in terms of durability and texture. と言えば「長持ちする点からいっても、肌触りという点からいっても優れている」とも使えますし、The country is backward in terms of people's diet and medical care. (その国は食生活と医療という点から考えても遅れている) のように、日常会話でもよく使われる非常に便利なフレーズです。

★「いいに決っている」は be bound to... (必ず・・・するはずだ) を使って it is bound to be better とも言えますが、「明らかにいい」として it is clearly [obviously] better that a news reporter should...か、For a news reporter to deliver... is clearly [obviously] better...くらいでいいと思います。あるいは、「もっと速いし、なまなましい」に naturally を組み合せて be naturally far speedier and more vivid もいいでしょう。

■現場からリポートするなら話したことばで取材記者が話す他はない。 (8710)

● 「そして」(関連性を強調する and)

上で、前言を否定しているのではなく、ほとんど意味をなしていない「しかし」がありましたが、ここでは論理性を補うという観点から「そして」(and)を先頭に置きたいと思います。

★「現場からリポートするなら」は if the [a] reporter is speaking at the spot (speaks でもいいのですが is speaking の方が具体的に想像している感じが出ます) とか、「なら」を「～に関しては」と解して in reporting from the spot the [a] reporter...などになります。

- ★ 「話しことばで」は use the spoken style とか use everyday language などでしょう。
- ★ 「・・・の他はない」は there is nothing for it but to...とか he has no alternative but to...などですが、necessarily を使って the [a] reporter necessarily uses everyday language することも出来ます。